

梅花女子大学短期大学部研究紀要
第63号（2015年3月20日刊）抜刷

漫画における男女の文末表現
— 少女向けコミック誌と少年向けコミック誌の比較 —

大 谷 伊 都 子

漫画における男女の文末表現 — 少女向けコミック誌と少年向けコミック誌の比較 —

大谷 伊都子

ŌTANI Itsuko : Gender Differences in Sentence-final Expressions

— A Comparison between Comics for Girls and Those for Boys —

1 はじめに

男性と女性とで言葉遣いに違いがあり、語彙レベルで主に男性しか使わない言葉、女性しか使わない言葉の区別があることは、日本語の大きな特徴であるといわれる。しかし、近年この言葉遣いの男女差、特に若い世代において文末表現における男女の違いがしだいになくなりつつあることも、さまざまな調査で指摘されている。

一方、漫画・ドラマ・小説などフィクションの世界では、現実よりもこのような男女表現の差が残存しやすい傾向にある。これは、作者なり脚本家なりが登場人物にそういう性差のある表現を使わせることにより、人物造型が容易になり、描こうとする人物像が受け手側にもわかりやすく伝わるという面があるからだろう。いわゆる「役割語」の一つとして、男性語・女性語が使用されているのである。しかし、それでも現実世界を反映し、こういったフィクションの世界でも、年代が下るにつれ、かつては主に男性が使っていた表現を女性が使うようになり、男女差がなくなってきているという報告もなされている。

本稿では、フィクションにおける男女表現の実態としてコミック誌をとりあげる。コミック誌は昨今の青少年における大きな娯楽の一つであり、彼らの言語使用の一端が作品の中に取り入れられている部分があるとともに、コミック誌が彼らの言語使用に影響を与えている部分もあろう。もちろんフィクションであるから作者の恣意的な面が大きく、現実をそのまま反映しているとは言えない。あくまでもコミック誌の中での表現ということでとりあげる。これまでも少女漫画における女性語をとりあげた報告は散見されるが、男性コミック誌の男女表現について分析したものはあまり見当たらない。そこで本稿では、コミック誌に登場する人物のせりふ、なかでも特に男女の言葉遣いの違いが見られやすい文末表現について、少女向けコミック誌と少年向けコミック誌で違いがあるかどうか比較することを試みる。

ここまで、文中で「男性語」「女性語」「男女表現」など特に定義せずに使用してきたが、本稿では、一般に「女性しか用いないことば」及び「女性が多く用いて、男性があまり用いないことば」とされるものをまとめて「女性的表現」、「男性しか用いないことば」及び「男性が多く用いて、女性があまり用いないことば」とされるものをまとめて「男性的表現」と、便宜上呼ぶことにする。

2 資料と方法

2-1 資料

分析する資料として、少女向けコミック誌は『花とゆめ』、少年向けコミック誌は『週刊少年ジャンプ』をとりあげる。

まず、『週刊少年ジャンプ』は集英社から発行されている少年向けコミック誌で、読者対象は小学生から高校生。日本雑誌協会のJMPAマガジンデータによると、1年間に発売された雑誌1号あたりの「平均印刷部数」（2012年10月1日～2013年9月30日）は、他の少年向けコミック誌を大きく引き離して1位（2,812,041部）となっている。

一方、『花とゆめ』は白泉社から月2回発行されている少女向けコミック誌で、読者対象はやはり小学生から高校生。JMPAマガジンデータによると、同じく雑誌1号あたりの「平均印刷部数」（2012年10月1日～2013年9月30日）は、1『ちゅお』（小学館）（552,500部）、2『別冊マーガレット』（集英社）、3『りほん』（集英社）に続いて第4位（159,242部）である。4位の『花とゆめ』を使用したのは、『ちゅお』『りほん』は読者年齢がやや低く、それに比べると『花とゆめ』は『週刊少年ジャンプ』の読者の年齢層に近いと思われるからである。

数字からわかるように、少年向けコミック誌は少女向けと比べ全体的に発行部数が多い。また、『週刊少年ジャンプ』は、少年向けといいながら女性読者の多いのが特徴で（注1）、筆者の勤務する大学の女子学生にも『ジャンプ』の愛読者は多い。

2-2 方法

各雑誌の主要登場人物の会話部分から文末表現をすべてピックアップし（ただし、文途中でのいいさしや後部省略・体言止めは除く）、ストーリーごとに、使用されている各文末表現の回数を男女別に合計する。さらに各ストーリーの各文末表現の男女別使用回数を総合計し、一冊のコミック誌全体として各文末表現の男女別使用回数を出す。登場人物については、1話の中で1シーンにしか出てこない人物は除き、複数シーンに登場する人物だけを主要登場人物として分析対象とした。

少女向けコミック誌として『花とゆめ』12号（2011年5月20日発売）を使用した（以下、「花とゆめ」と表記）。総ページ数450ページ、14話のストーリーのうち、ショートギャグマンガ2話を除く12話（1話あたり30ページ前後。多くは連載物）をとりあげた。分析対象とした主要登場人物は、女性32人・男性34人である。12話のうち9話は高校を舞台とし高校生が中心となる恋愛ストーリー（残り3話のうち2話は架空の国を舞台としたファンタジーロマン、1話は新宿を舞台とした男の友情物語で女性は登場しない）。各話主要登場人物は男女とも平均すると2～4人で、主役となる男女とそれをとりまく数人の友だちという構成になっている。少女向けとはいいいながら男女の恋愛が中心なので、ストーリーの中で男性の果たす役割は大きく、女性登場人物と対等に登場する。主要登場人物の男女人数からもそれは明らかで、女性数と男性数がほぼ同じになっている。

少年向けコミック誌として、『週刊少年ジャンプ』No.23（2011年5月30日号）を使用した

(以下、「ジャンプ」と表記)。総ページ数は494ページ、独立したストーリー21話（1話あたり20ページ前後。多くは連載物）を含むが、そのうち4話は、舞台が江戸時代など歴史物なので除外した。したがって今回分析に用いたのは17話である。分析対象としてとりあげた主要登場人物は、女性28人・男性82人である。

「花とゆめ」では主要登場人物の男女人数がほぼ同じだったのに対し、「ジャンプ」では、女性の3倍近い男性が登場する。また登場する女性の役割としては、主役級の男性に対し、男性登場人物に花を添える脇役的な存在が多い。17話のストーリーのうち、女性が主役級で登場するのは1話のみで、脇役として登場するのが12話、「その他大勢」という形で登場するのが1話、女性が一切登場しないのが3話である。

また、高校生の男女の恋愛がテーマになっているストーリーが多くを占める「花とゆめ」に対し、「ジャンプ」のほうは、ジャンルもテーマも多彩である。舞台は高校だけでなく幼稚園や中学校、会社や職場もあり、テーマは仕事、スポーツ、バトル・格闘、冒険ファンタジー、魔法・魔界・オカルトなどで、恋愛がメインテーマになっているものは少ない。「ジャンプ」では、「花とゆめ」に比べると各話とも総じて男性登場人物の数が多いのみならず、人物造型もバラエティに富んでおり人間関係が複雑である。

3 「花とゆめ」における文末表現

「花とゆめ」において分析対象とした主要登場人物は、女性32人・男性34人で、上記でもふれたように、男女の恋愛がテーマなので、女性だけでなく男性登場人物も大きなウェイトをしめる。カウントした文末総数は、女性が406、男性が483。単純に登場人物数で割ると、1人当たり文末数は、女性が12.7、男性が14.2となる。文途中でのいいさしや後略・体言止めなどはカウントしていないので、文末数は実際の発話数よりは少なくなっていることを考慮するとしても、女性より男性のほうが多く発話している勘定になる。これは予想に反する意外な結果だった。

ここでは「花とゆめ」の男女ごとにそれぞれカウントした文末総数にしめる各文末表現使用回数の割合をパーセント表示（少数点以下第二位を四捨五入）し、男女どちらか片方でも2%以上のものを使用率の高い文末表現としてとりあげた。その際、以下の4グループに分類した上で考察を加える。なお、用例は、該当文末表現を含むせりふ・ストーリーのタイトル・性別の順に記している。

- 1 女性のほうが多く使用する文末表現
(女性使用率が2%以上で、男性使用率がその2分の1未満)
- 2 男性のほうが多く使用する文末表現
(男性使用率が2%以上で、女性使用率がその2分の1未満)
- 3 男女ともに多く使用する文末表現
(男女とも使用率が2%以上で、使用率の少ないほうが多いほうの2分の1以上)

大 谷 伊都子

4 男女ともに使用する文末表現

(男女どちらかのみ使用率が2%以上で、使用率の少ないほうが多いほうの2分の1以上)

3-1 女性のほうが多く使用する文末表現

1) 動詞連用形＋て(丁寧な命令) [男0.8% 女2.2%]

(1)「ちょっとまって」「(今日も明日も。)」女)

2) 連体形(注2)＋の [男0.6% 女8.1%]

(2)「今年は何かすごいゲストが来るって噂が出てるの!!」(「学園アリス」女)

(3)「本当に何も心当たりはねェの…」(「新宿ロストドッグス」男)

女性の使用率が高いが、(3)のように疑問文としての形であれば、男性も使用する。

3) ～のよ [男0% 女3.2%]

(4)「もしお母さんがいなくなったら1人で頑張るのよ」(「神様はじめました」女)

(5)「うかうかしてると足鞠われちゃうのよ?」(「天使1/2方程式」女)

男性の使用例0からもわかるように、非常に女性的な表現である。

4) ～わ [男0.8% 女3.9%]

(6)「あなた見てるとイライラするわ」(「天使1/2方程式」女)

(7)「このままじゃ寝覚めが悪ィわ」(「新宿ロストドッグス」男)

「～わ」は一般に「女性的表現」とされるが、イントネーションによっては(7)のように男性も使用する。また、「花とゆめ」の中でもすべての女性が「～わ」を使うわけではなく、「女性的表現」を多用する女性というのがキャラクターとして決まっており、彼女らの存在が使用率をアップする要因となっている。

3-2 男性のほうが多く使用する文末表現

1) 終止形(注3)＋か [男3.5% 女1.7%]

(8)「俺らも教室戻るか」(「恋してオカリナ」男)

女性にも使用例があるが、これは、「王子と魔女と姫君と」(以下「王子と～」と記す)の染井吉野、「リーゼロッテと魔女の森」(以下「リーゼロッテ～」と記す)のリーゼロッテ、ともに「女性的表現」を使わず「男性的表現」を多用する(以下、「男性的表現」を多用する」と記す)という設定の女性であり、その他の女性は用いていない。

2) ～の(ん)だ [男4.6% 女2.2%]

(9)「何故俺にだけ鉛をくれないんだ」(「恋してオカリナ」男)

このように疑問文で「～の(ん)だ」を使うのは男性である。

(10)「そっか… わたし女子の友達いなかったんだ」(「恋してオカリナ」女)

- (11) 「花も野菜も作るんだっ」(「リーゼロッテ〜」女)
(10) (11) のように自分自身で事実を確認したり、何かを宣言したりする場合は男女とも使うが、女性は「〜のだ」ではなく「〜んだ」が多い。

3-3 男女ともに多く使用する文末表現

1) 終止形(注4)原形 [男19.5% 女11.2%]

(12) 「俺がもっていく」(「今日も明日も。」男)

(13) 「聞いている ちか!?!」(「今日も明日も。」女)

男女とも普通に使用するが、男性のほうが使用率は高い。

2) 動詞命令形 [男4.8% 女3.9%]

(14) 「隠れる 急げっ」(「モノクロ少年少女」男)

(15) 「ちょっとツラ貸せ」(「王子と〜」女)

女性の使用例は、「王子と〜」の染井、「リーゼロッテ〜」のリーゼロッテ、ともに「男性的表現」を多用する女性に見られる。

3) 連用形(注5)+た [男4.1% 女4.2%]

(16) 「少し落ち着いた?」(「モノクロ少年少女」男)

(17) 「そんなことかんがえたことなかった…」(「モノクロ少年少女」女)

男女とも普通に使用する。

4) 名詞+だ [男3.5% 女3.4%]

(18) 「てめーのせいだチビブス」(「モノクロ少年少女」男)

(19) 「こっちのセリフだっ」(「モノクロ少年少女」女)

「花とゆめ」の中では、「男性的表現」を多用する女性が多く使用しており、女性の使用率を押し上げる結果となっている。

5) 終止形(注3に同じ)+な [男3.7% 女4.2%]

(20) 「…素直じゃないのは変わらないな」(「王子と〜」男)

(21) 「甘いなアルト 変わっていないぞ」(「リーゼロッテと〜」女)

終助詞の「な」にはいろいろな意味があるが、ここにあげるのは、相手や自分への確認や直接的な感動を表す用法である。「王子と〜」の染井、「リーゼロッテと〜」のリーゼロッテ(いずれも「男性的表現」を多用する女性)、また、「神様はじめました」の奈々生(女)が小学生の頃のせりふなど、女性の場合、特定の話者が多用する傾向にあり、そのため全体としては男性より使用率が高くなっている。

6) 終止形(注3に同じ)+よ [男9.3% 女7.4%]

(22) 「奈々生ちゃんにとって両親は人生の見本ってわけだよ」(「神様はじめました」男)

(23) 「染井さんはすごいよ！」(「王子と～」女)

「男女ともに多く使用する文末表現」は、大きく二タイプに分けられる。まず、「終止形原形」「連用形+た」などいわゆる終助詞を伴わない活用語の原形表現である。これらはモダリティを含まない中立的な表現であり、男女を問わず用いられるのは当然のことといえる。二番目に、活用語の終止形のあとに終助詞「な」「よ」を伴う表現である。「よ」は名詞や形容動詞語幹に直接つくと女性が多用する表現であるが、ここで見られるように活用語の終止形に下接する用法は、かつては男性が多用していた表現である。近年は前者が用いられなくなり、後者は女性にも普通に用いられるようになった。ただ、「2」動詞命令形「4」名詞+だは「男性的表現」を多用するキャラクターとして設定されている女性に目立って使用例がみられ、今もまだ男性が多用する表現となっている。

3-4 男女ともに使用する文末表現

1) ～のか [男1.0% 女2.0%]

(24) 「俺に居て欲しいのか大路」(「王子と～」男)

(25) 「走らせるべきなのか止めるべきなのか」(「今日も明日も。」女)

「～のか」は、(24) のように疑問文として使えば「男性的表現」だが、(25) のように自問したりことがらを再認識したりするような文脈では、女性も使用する。

2) ～ぞ [男2.7% 女1.7%]

(26) 「殺されるトコだったぞ」(「新宿ロストドッグス」男)

(27) 「今日こそ私も手伝うぞっ」(「リーゼロッテ～」女)

3) ～だろ(う) [男2.9% 女1.7%]

(28) 「料理全般はおまえの仕事だろう!？」(「リーゼロッテ～」男)

(29) 「テストなんざ普通の授業の応用だろ」(「王子と～」女)

4) 接続助詞+な [男2.9% 女1.7%]

(30) 「今高エんだからな」(「新宿ロストドッグス」男)

(31) 「もう少し土をならしたかったんだがなあ」(「リーゼロッテ～」女)

ここにあげられているのは、一般には、どれも「男性的表現」と考えられるものだが、女性の使用例が少なからず見られる。「～のか」などは、女性のほうが使用率が高い。「男性的表現」を多用する女性登場人物(たとえば、「王子と～」の大路・染井、「リーゼロッテ～」のリーゼロッテなど)が一定数おり、彼女たちが使用率を引き上げているからである。「花とゆめ」では、「男性的表現」を多用する女性・「女性的表現」を多用する女性という役割設定がはっきりしており、それ以外の女性は、男女共通に使用する中立的表現をメインに、場面に応じて「男性的表現」や「女性的表現」を混用している。

一方、男性登場人物には、「男性的表現」を使わず「女性的表現」を多用するというキャラクターは存在せず、程度の差はあれ、ほぼ全員が「男性的表現」と中立的表現を混用している。「ai」「ae」などの二重母音が「e:」になるくずれた発音（「あぶない」→「あぶねー」、「おまえ」→「おめー」など）をすることがあるのが、多くの男性登場人物の特徴で、これは、「男性的表現」を多用する女性も用いる。

4 「ジャンプ」における文末表現

「ジャンプ」において分析対象とした主要登場人物は、女性28人・男性82人で、男性登場人物が女性登場人物の3倍近い人数をしめ、「花とゆめ」の男性登場人物と比較しても2.4倍である。また、カウントした文末総数は、女性が179、男性が1026。女性の主要登場人物数は「花とゆめ」とそれほど変わらない（「花とゆめ」は32人）が、女性の文末総数はかなり少ない。1人当たり文末数を計算すると、女性が6.4、男性が12.5となる。「花とゆめ」では、女性が12.7、男性が14.2だったから、男性のほうは「花とゆめ」よりやや少ない程度だが、女性の1人当たり文末数は半分になっている。つまり、「ジャンプ」では、女性が端役的な存在でセリフも少ないストーリーが多いということがわかる。

「花とゆめ」と同様、男女ごとに、それぞれ文末総数にしめる各文末表現使用回数の割合をパーセント表示し、男女どちらか片方でも2%以上のものを使用率の高い文末表現としてとりあげる。また、ここでも、11ページに記した4グループに分類した上で考察を行ったが、「4男女ともに使用する文末表現（男女どちらかのみ使用率が2%以上で、使用率の少ないほうが多いほうの2分の1以上）」に分類される文末表現はなかった。

4-1 女性のほうが多く使用する文末表現

1) 連体形+の [男0.8% 女10.6%]

- (32) 「シオンを信じるの!!!」(「マジコ」女)
- (33) 「教室入るの? 入らないの?」(「いぬまるだしっ」女)
- (34) 「誰を好きになったの?」(「スケッチダンス」男)

2) ~のよ [男0% 女3.4%]

- (35) 「えーちょっとなんで急にアプリおちるのよ!!」(「いぬまるだしっ」女)

3) ~わ [男0.1% 女5.0%]

- (36) 「今日も一人も署名してくれなかったわ…」(「ワンピース」女)

以上3つの表現は、「花とゆめ」でも「女性のほうが多く使用する文末表現」となっており、典型的な「女性的表現」といえよう。ただ、「連体形+の」は(34)のように疑問の形であれば、男性も使用する。

大 谷 伊都子

4) ～わね [男0% 女2.2%]

(37)「無茶するわね」(「こちら葛飾区亀有公園前派出所」女)

5) ～なの [男0.2% 女2.2%]

(38)「口竹君に呼ばれて行ったっきりなの」(「ドイソル」女)

(39)「そうなの?」(「いぬまるだしっ」男)

「～なの」は、肯定文で使うと「女性的表現」であるが、(39)のような疑問文では男性も使用する場合がある。

「～わね」「～なの」とも用例数は少ないのだが、女性の文末総数が少ないので使用率としては2%を越える結果となった。これらはどちらも「女性的表現」で、「ジャンプ」の女性登場人物は「花とゆめ」より「女性的表現」を多用する傾向にある。

4-2 男性のほうが多く使用する文末表現

1) 終止形+か [男3.2% 女0%]

(40)「ひどい点数じゃないか」(「スケッチダンス」男)

2) 名詞+だ [男10.9% 女1.7%]

(41)「人型自律式二足歩行ロボットたちのマラソンだ」(「こちら葛飾区亀有公園前派出所」男)

(42)「やっぱり桑田君だ!!」(「メルヘン王子グリム」女)

3) 終止形+な [男4.4% 女0.6%]

(43)「確かに我々が過敏な反応を見せるのはよくないな…」(「バクマン。」男)

(44)「ミチルさん 優しいなー」(「スケッチダンス」女)

「2) 名詞+だ」と「3) 終止形+な」は、「花とゆめ」では、「男女ともに多く使用する文末表現」に分類されているが、「ジャンプ」では「男性のほうが多く使用する文末表現」となっている。特に「名詞+だ」は男性の使用率が非常に高い。また、「終止形+な」は、「花とゆめ」では女性のほうが使用率が高かったが、「ジャンプ」では女性の使用率が非常に低い。

4) ～のか [男2.4% 女0.6%]

(45)「垂城木くんとはもう話したのか」(「バクマン。」男)

5) ～だろ(う) [男2.5% 女1.1%]

(46)「今サーヤちゃん関係ないだろ!!」(「スケッチダンス」男)

6) 接続助詞+な [男2.1% 女0.6%]

(47)「影化中の記憶はほぼ持っていないだろうがな…」(「エニグマ」男)

(48) 「ロボット技術は日本が世界一だと思っしな」(「こちら葛飾区亀有公園前派出所」男)

「花とゆめ」では、「4) ~のか」は女性の使用率のほうが高く、「5) ~だろ(う)」「6) 接続助詞+な」は男性の使用率のほうが高いものの、いずれもそれほど男女差が大きくなり、「男女ともに使用する文末表現」に分類されていた表現である。

7) 名詞+か [男2.1% 女0.6%]

(49) 「例の銀行強盗か？」(「バクマン。」男)

1) ~7) の文末表現は、従来の認識では「男性的表現」と言ってもいいもので、「ジャンプ」では、そういう表現が実際に「男性のほうが多く使用する文末表現」に入っている。

「花とゆめ」では「男性的表現」を多用するキャラクターとして描かれる女性が何人か登場しこういった表現を多用すること、またそうでない女性も場面や相手によって「男性的表現」を使用することから、男女の使用率にあまり差が出ず、「男女ともに多く使用する文末表現」「男女ともに使用する文末表現」の中に「男性的表現」が多く現れた。

「ジャンプ」にも、「男性的表現」を多用するキャラクターとして描かれる女性が何人か登場するが、「花とゆめ」よりは少なく主役級ではないので発話数も少ない。それよりも、男性登場人物に「男性的表現」を多用させる傾向があるため、「男性のほうが多く使用する文末表現」の中にこれらの「男性的表現」が数多くあがってくる結果となっている。

4-3 男女ともに多く使用する文末表現

1) 終止形原形 [男19.1% 女13.4%]

(50) 「戦争だってどうにかしてみせる!!」(「ナルト」男)

(51) 「触った感覚もあるしヅラもとれる！」(「いぬまるだしっ」女)
「花とゆめ」同様、「ジャンプ」でも男性のほうが使用率は高い。

2) 動詞命令形 [男5.2% 女3.9%]

(52) 「オレを信じろ」(「マジコ」男)

(53) 「だから闇雲に戦おうとしないでくれ」(「めだかボックス」女)

3) 連用形+た [男4.5% 女3.4%]

(54) 「事件の後には必ずお前を心から慕う奴らがいたッ…!!!」(「マジコ」男)

(55) 「野永君超遅いし…やっぱついていけばよかった」(「ドイソル」女)

4) 終止形+よ [男8.3% 女7.9%]

(56) 「最近ずっとおかしいよ」(「スケッチダンス」男)

(57) 「あたしが治せば早く治るよ…？」(「ブリーチ」女)

大 谷 伊都子

「ジャンプ」でも、2)の動詞命令形を使用する女性は「男性的表現」を多用するキャラクターに限られるが、1) 3) 4)は、女性も普通に使う文末表現である。

5) ~の(ん)だ [男3.8% 女2.2%]

(58)「この理由なきざわめきは…なんなのだあああッ!!!」(「マジコ」男)

(59)「エマとシオンのためだから…ほんとにがんばれたんだ…!!!」(「マジコ」女)

「花とゆめ」でも述べたように疑問形で用いるのは男性だが、(59)のような例では女性も使う。また、女性は「のだ」よりも「んだ」を使いやすい。

6) ~ぞ [男4.2% 女2.2%]

(60)「やばいぞ!」(「こちら葛飾区亀有公園前派出所」男)

(61)「奴が動くぞ」(「べるぜバブ」女)

(62)「あたしもやるぞッ」(「マジコ」女)

「~ぞ」は一般には「男性的表現」ととらえられているが、「ジャンプ」では女性の使用率も2%を越えている。また、「花とゆめ」でも男2.7%、女1.7%と、女性にも使用例がある。これは(61)のように「男性的表現」を多用する女性が使用するばかりでなく、(62)のように、そうではない女性が意図的に少しふざけて使う場合もあるからである。

5 「花とゆめ」と「ジャンプ」の男女の文末表現の比較

5-1 男女使用率の高い表現

各誌の女性・男性が使用する文末表現について、それぞれ使用率2%以上の表現を使用率の高いものからあげると次のとおりである。(() 内は%)

女性の文末表現

(☆印は「花とゆめ」のみ2%以上の使用率、★印は「ジャンプ」のみ2%以上の使用率)

「花とゆめ」	「ジャンプ」
1 終止形原形 (11.2)	1 終止形原形 (13.4)
2 連体形+の (8.1)	2 連体形+の (10.6)
3 終止形+よ (7.4)	3 終止形+よ (7.9)
4 連用形+た (4.2)	4 ~わ (5.0)
☆終止形+な (4.2)	5 動詞命令形 (3.9)
6 動詞命令形 (3.9)	6 連用形+た (3.4)
~わ (3.9)	~のよ (3.4)
8☆名詞+だ (3.4)	8★~ぞ (2.2)
9 ~のよ (3.2)	~の(ん)だ (2.2)
10 ~の(ん)だ (2.2)	★~わね (2.2)

- ☆動詞連用形+て (2.2) ★～なの (2.2)
 12☆～のか (2.0)

男性の文末表現

(★印は「ジャンプ」のみ2%以上の使用率)

「花とゆめ」	「ジャンプ」
1 終止形原形 (19.5)	1 終止形原形 (19.1)
2 終止形+よ (9.3)	2 名詞+だ (10.9)
3 動詞命令形 (4.8)	3 終止形+よ (8.3)
4 ～の(ん)だ (4.6)	4 動詞命令形 (5.2)
5 連用形+た (4.1)	5 連用形+た (4.5)
6 終止形+な (3.7)	6 終止形+な (4.4)
7 終止形+か (3.5)	7 ～ぞ (4.2)
名詞+だ (3.5)	8 ～の(ん)だ (3.8)
9 ～だろ(う) (2.9)	終止形+か (3.2)
接続助詞+な (2.9)	10 ～だろ(う) (2.5)
11 ～ぞ (2.7)	11★のか (2.4)
	12★名詞+か (2.1)
	接続助詞+な (2.1)

まず、「花とゆめ」と「ジャンプ」の女性文末表現を比較すると、上位をしめている、つまり使用率の高い文末表現はほとんど共通する。上位3位までは順位も全く同じ、また、4位以下も、「連用形+た」「～わ」「動詞命令形」「～のよ」「～の(ん)だ」など両誌に共通する表現が入っており、それほど大きな差はない。

使用率から見て大きな差があるのは、「花とゆめ」で4位に入っている「終止形+な」(4.2%)が「ジャンプ」では0.6%、また「花とゆめ」で8位に入っている「名詞+だ」(3.4%)も「ジャンプ」では1.7%。特に「終止形+な」は「ジャンプ」では女性の使用率が非常に低い。「花とゆめ」では「終止形+な」「名詞+だ」「～のか」など、どちらかといえば「男性的表現」とされる語が、「ジャンプ」では逆に「～わね」「～なの」のようにどちらかといえば「女性的表現」とされる語が多く使用されており、少女向けコミックでは女性に「男性的表現」を、少年向けコミックでは女性に「女性的表現」を使わせる傾向がうかがえる。

次に、「花とゆめ」と「ジャンプ」の男性文末表現においても、上位をしめている使用率の高い文末表現はほぼ重なっているといつてよい。

数値的に大きく違うのは、「ジャンプ」で2位に入っている「名詞+だ」(10.9%)が「花とゆめ」では3.5%(7位)と、かなり低い点である。「花とゆめ」では女性の使用率も3.4%で、男性とほぼ同じだが、「ジャンプ」での女性の使用率は1.7%と非常に低い。つまり、「ジャンプ」では、「名詞+だ」は、男性のみが多用する表現となっている。

これらのことから、女性の使用率が高い文末表現・男性の使用率が高い文末表現ともに、少

大 谷 伊都子

女向けコミック誌と少年向けコミック誌ではそれほど大きな差が見られず、共通している点が多いといえるだろう。終助詞を含まない「終止形原形」や「連用形+た」などいわゆる中立的表現が両誌で男女ともに高い率で用いられており、これは現実の使用状況がある程度反映されているといえる。また、「終止形+よ」は男女とも高い率で用いられている。

ただ、女性のほうで、動詞命令形の使用率がかなり上位に入っているのはコミック誌ならではの特徴ではないか。「男性的表現」を多用する女性登場人物が一定数おり使用率を上げているが、現実世界では動詞命令形を日常的に用いる女性がどの程度いるかは、とりあげる母集団によってもかなり変わってくると思われる。

5-2 両誌における男女使用率の違い

同じコミック誌の中での男女の使用率の差という観点から、「花とゆめ」と「ジャンプ」を比較してみよう。

「女性のほうが多く使用する文末表現」（女性使用率が2%以上で、男性使用率がその2分の1未満）に入っている表現として以下のものがある。

- i 両誌ともに入っているもの
 - ・「連体形+の」「～のよ」「～わ」
- ii 「花とゆめ」のみに入っているもの
 - ・「動詞連用形+て」丁寧な命令（「ジャンプ」では男女とも2%未満）
- iii 「ジャンプ」のみに入っているもの
 - ・「～わね」「～なの」（「花とゆめ」では男女とも2%未満）

ここであがっている文末表現のうち、丁寧な命令に用いられる「動詞連用形+て」は男性も使用する可能性があるが、それ以外の表現は、男性の使用がほとんど見られない「女性的表現」である。「ジャンプ」では女性に、より「女性的表現」を使わせる傾向にあるといえる。

一方、「男性のほうが多く使用する文末表現」（男性使用率が2%以上で、女性使用率がその2分の1未満）に入っている表現として以下のものがある。

- i 両誌ともに入っているもの
 - ・「終止形+か」
- ii 「花とゆめ」のみに入っているもの
 - ・「～の（ん）だ」（「ジャンプ」では「男女ともに多く使用」）
- iii 「ジャンプ」のみに入っているもの
 - ・「名詞+だ」「終止形+な」（「花とゆめ」では「男女ともに多く使用」）
 - ・「～のか」「～だろ（う）」「接続助詞+な」（「花とゆめ」では「男女ともに使用」）
 - ・「名詞+か」（「花とゆめ」では男女とも2%未満）

「ジャンプ」のみに入っている「男性のほうが多く使用する文末表現」の種類が多いが、これらは従来の認識では一般に「男性的表現」ととらえられており、「花とゆめ」では「男性的表現」の男女の使用率の差があまり大きくないのに対し、「ジャンプ」では男性に、より「男性的表現」を使わせる傾向にあるといえる。

これらからまとめると、「花とゆめ」に比べて「ジャンプ」のほうが、男性・女性にそれぞれ

れ性差のある文末表現を多く使わせる傾向にあるといえよう。

6 おわりに

ここまで、少女向け及び少年向けコミック誌における男女の文末表現について考察を試みた。先行研究には、終助詞を含んだ文末表現など性差が目立った表現のみをとりあげ男女の比較をしたものが多いが、本稿では、終助詞を使っていない文末表現も含め、文末表現全体の中で「男性的表現」や「女性的表現」の占める位置づけを把握することも一つの目的である。

まず、両コミック誌で使用率の上位にくる文末表現には、男女とも、終助詞を伴わず活用語の原形で終わっている表現がかなりの割合をしめることがわかった。終助詞を伴う表現で、唯一男女とも使用率の高いものが「終止形+よ」である。そういった中で、「女性のほうが多く使用する文末表現」として、「連体形+の」「～わ」「～のよ」などが、「男性のほうが多く使用する文末表現」として、「終止形+か」「～だろ（う）」「接続助詞+な」などが比較的上位に見られる。つまり、登場人物は「男性的表現」や「女性的表現」を常時使用するのではなく、中立的表現に交えて部分的に使用している。使用数がそれほど多いわけではないが、和語・漢語の中で洋語が目立つように、「男性的表現」や「女性的表現」は有標で目立つのである。たとえば、女性登場人物で言えば、「男性的表現」を一切使わず「女性的表現」を多用する女性から、「女性的表現」を一切使わず「男性的表現」を多用する女性までを両極として、その間に「女性的表現」と「男性的表現」の使用率の多寡によってさまざまなキャラクターが設定されるわけである。

次に、「ジャンプ」は、「花とゆめ」と比べると、主要登場人物の総人数は1.7倍、またその中で男性登場人物の数は女性登場人物の3倍近くあり、ストーリーのジャンルもテーマも多様であるにもかかわらず、文末表現に関しては、「花とゆめ」より、男性は「男性的表現」を、女性は「女性的表現」を使用しがちな傾向がみとれる。「少年向け」のほうが表現の自由度が低く、ジェンダー的なものに縛られているといえる。

また、両コミック誌に共通しているのは、女性のほうが男性より、「男性的表現」も含めて多彩な文末表現を用いる傾向にあるということである。女性が「男性的表現」を使うことと、男性が「女性的表現」を使うこととを比べると、圧倒的に前者のほうが多い。この現象は、コミックの世界だけでなく現実世界にもあてはまるだろう。「少年向け」のほうが表現の自由度が低く、ジェンダー的なものに縛られている」ことを前述したが、これは、少年向けコミックの作者に男性が多いことと関係するのかもしれない。

おそらく、「ジャンプ」を愛読する女子は多いが、「花とゆめ」を愛読する男子は少ない」とか、「ズボンをはく女性は多いが、スカートをはく男性は極めて少ない」といった事実とも通じるのだろうが、このような現象が何を意味するのかは、さまざまな要因を含むおもしろい考察課題であろう。

(注1) 「発行部数300万部の「週刊少年ジャンプ」を支える熱い女子」参照 2012/11/5

『日本経済新聞 Web刊』http://www.nikkei.com/article/DGXNASFK31007_R31C12A000000/
(2014年9月4日(木) 最終閲覧)

大 谷 伊都子

- (注2) 活用語（用言及び助動詞）の連体形。ただし、助動詞の「です」「ます」は除く。「～ですの」「～ますの」は丁寧表現になるので、別の文末表現としてカウントする。
- (注3) 活用語（用言及び助動詞）の終止形。ただし、注2と同様、助動詞の「です」「ます」は除く。
- (注4) 活用語（用言及び助動詞）の終止形。ただし、形容動詞と助動詞の「だ」「です」「ます」は除き、それぞれ別の文末表現としてカウントする。
- (注5) 活用語（用言及び助動詞）の連用形。ただし、注2と同様、助動詞の「です」「ます」は除く。

参考文献

- 『月刊言語』2002年2月号 特集：言語のジェンダー・スタディーズ 大修館書店
- 『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』金水敏 岩波書店 2003年
- 「テレビアニメの流布する「女ことば／男ことば」規範」佐竹久仁子
(『ことば』24号 現代日本語研究会 2003年)
- 「漫画に見るジェンダー表現の機能」因京子
(『日本語とジェンダー』3号 日本語ジェンダー学会 2003年)
- 『日本語学』2004年6月号 特集：ジェンダーから見た日本語 明治書院
- 『日本語とジェンダー』日本語ジェンダー学会 ひつじ書房 2006年
- 『役割語研究の地平』金水敏編 くろしお出版 2007年
- 『ジェンダーで学ぶ言語学』中村桃子編 世界思想社 2010年
- 『役割語研究の展開』金水敏編 くろしお出版 2011年
- 「言語とジェンダー研究の新たな展開」岡本成子 (『日本語学』2011年11月臨時増刊号 明治書院)